

二十歳の頃

17 期 A 班 松本・石田・前田・宮下

[研究動機]

これまで食パンといえば、朝食や給食等で食べる家庭的なものだった。しかし、阪上社長は高級「生」食パンという新たなブランドの確立に成功し、「お土産として持っていける食パン」を生み出した。乃が美は昨今の高級パンブームの火付け役となり、日常品だった食パンを嗜好品へと変化させた。そんな今までの常識を覆し、人々の一歩先を行くという起業家として重要な力を持つ阪上社長から、是非お話を伺いたいと思い、今回インタビューを行った。

[取材させていただいた方]

株式会社乃が美ホールディングス 代表取締役社長 阪上雄司様

[企業概要]

高級「生」食パン専門店 乃が美は、2013 年創業の食パン専門店。大阪府上本町に本店を構え、全国 47 都道府県に 222 店舗を展開(2021 年 6 月時点)。卵未使用、カナダ産 100% の小麦粉で職人が一つ一つ丁寧に焼き上げる食パンは、耳まで柔らかく上品な甘みが特徴である。コロナ禍にも柔軟に対応し、催事売り上げを拡大している。

[阪上雄司社長について]

1968 年兵庫県西宮市出身。高校卒業後、(株)ダイエーに入社。惣菜部門の責任者を務め、23・24 歳時に全国トップの売り上げを 2 年連続で達成した。26 歳で居酒屋を開業。以来 20 年以上にわたり様々な飲食店を経営している。

[乃が美誕生のきっかけ]

阪上社長が老人ホームを訪れた際、食パンの食べ残しの多さに驚き、職パンの耳は固くご年配の方には食べ辛いことに気付いた。だったら全部おいしく食べられる食パンを作れば良いと思い、現在の『乃が美の「生」食パン』が誕生した。

[インタビュー内容]

Q.人にもものを伝える時、どのような点に注意しているか？

A. 目線には一番注意しており、これは人と話すうえで最も重要なことであると考えている。また、お客様が商品を購入された際「本日はありがとうございます。」といったような一言を大切にしている。これがあるかないかで購入者の感じ方は大きく異なる。技術が発達している現在において、“人”の持つ想いや温かみは大きな強みである。

Q.二十歳の頃に力を入れていたことは？

A. 二十歳の頃には、自分になりたいビジョン、夢、イメージを手帳に書き出していた。そうすることで自分が何をしたいのか、何歳までにどのようななっていたいのか明確になる。そこから逆算して今は何をすべきなのか導き出していた。企業を経営していくには事前に目標を定めておく必要があるため、これは起業する際にも役立った。

Q.二十歳の頃と現在とで変わった点や貫き通していることは？

A. 二十歳の頃は、本当に夢が叶うのか、成功している人が特別なだけではないかと不安を感じたり卑屈な考えを持ったりすることもあった。しかし、自分には無理だと諦めたり自身のやっていることを疑ったりせず挑戦を続けた結果、今がある。今では、思い悩まず思ったことを突き進めば夢は叶うし思いは伝わるということを実感している。

Q.今までの失敗や挫折の経験は？

A. 狂牛病の流行、台風や地震といった自然災害などによる被害に追い込まれ、もう駄目だと思ふこともあった。しかし、このような経験から経営のいたるところにリスクが存在することを体感し、「飲食関係+リスク最小限」のビジネスを模索した。その結果見つけたのが小麦と乳製品だった。これらは国が管轄しているため、災害時にもほとんどぶれることなく供給される。このように、リスク管理という観点からも食パンビジネスに繋がったといえる。

Q.二十歳になる人へ一言

A. コロナ禍という事態だからこそ出来ることを模索し、自分の将来に向けてとにかく動きだして欲しい。先手で動いていくことが大切。

人生はジャンプと同じで、下に深く沈むからこそ高く跳べる。振り返ると大変なことはたくさんあった。しかし、波風の立たない人生だったら今の成功はないと思う。辛くしゃがみこむ時間があるからこそ、成功という頂に繋がる。

また、特技や置かれている環境、立場は人によって違う。それらを全て踏まえた上で自分の得意なことややりたいこと、自分が出来ることを極めていけば、必ず光が見えてくる。自分と他人は違うことをしっかりと受け止めて自分に出来ることをやって欲しい。

[最後に]

インタビューを通して「人との繋がりを大切にすること」「自分にしかできないことを見つけること」「一歩踏み出す勇気を持つこと」の大切さを教えて頂きました。何をするにも、まずは行動してみなければ何も始まりません。阪上社長は、一歩踏み出す勇気があったから乃が美をここまで成長させることができたのだと思います。二十歳という年は多くの選択肢があり、たくさんのことにチャレンジできる貴重な時間です。この大学生という期間を生かし様々なことにチャレンジして、失敗を経験しながら成長していきたいと思っています。